様式１

多段階評価

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉部障害者支援課
評価対象期間	令和７年４月１日～令和８年３月３１日

１　指定概要

<table>
<tr><td rowspan="3">施設概要</td><td>名　　称</td><td>北九州市立
小倉南障害者地域活動センター</td><td>施設類型
Ⅰ</td><td>目的・機能
―　⑦</td></tr>
<tr><td>所 在 地</td><td colspan="3">北九州市小倉南区横代北町四丁目１２番１号</td></tr>
<tr><td>設置目的</td><td colspan="3">利用者の作業支援、生活支援、健康管理その他の支援を行うことにより障害者の生活及び福祉の向上に資することを目的としている。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">利用料金制</td><td colspan="3">非利用料金制　・　一部利用料金制　・　完全利用料金制</td></tr>
<tr><td colspan="2">インセンティブ制　有・無</td><td colspan="2">ペナルティ制　有・無</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定管理者</td><td>名　　称</td><td colspan="3">社会福祉法人北九州あゆみの会</td></tr>
<tr><td>所 在 地</td><td colspan="3">北九州市戸畑区汐井町１番６号</td></tr>
<tr><td colspan="2">指定管理業務の内容</td><td colspan="3">障害福祉サービス事業所（施設入所支援、生活介護、就労継続支援（Ｂ型））の管理運営</td></tr>
<tr><td colspan="2">指定期間</td><td colspan="3">令和３年４月１日～令和８年３月３１日</td></tr>
</table>

２　評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
１　施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	５０		４０
（１）施設の設置目的の達成 ①　計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ②　施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。 ③　利用者のサービス提供計画に基づき、適切に福祉サービスが実施されているか。	２５	５	２５

［評価の理由、要因・原因分析］

【生活介護（通所）利用率】　（単位：%）

年度	【参考】R2 年度（更新前）	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	90%以上	90	90	90	90	90.0
実績	93	92	92	93	95	97.4

※利用率算出方法：延べ利用者数÷（定員×開所日数）

※　　・・・評価対象年度（以下、同じ）

①③・利用者や家族からの声を謙虚に受け止め、サービス・支援内容の改善に努めており、高い利用率を維持している。事業計画に沿った適切な管理運営が行われており、各サービスにおいて、個別支援計画等に基づき、利用者の障害特性や個別のニーズにあったサービス提供に努めている。

①・施設入所支援について、重度の方が多く在籍しているため、介護福祉士を手厚く配置し、細やかな支援により利用者が安心して生活できる体制を構築している。また、見守り介護ロボット（７台）を導入し、入所者のバイタルサイン（脈拍数、血圧等）をスタッフルームから２４時間監視できる環境を構築しており、深夜緊急時の迅速な対応や職員の負担軽減につながっている。さらに、歯科医院と連携し、入所者の摂食能力の評価を行い、食べる力にあった嚥下食の提供を行っている。

・生活介護について、入浴やレクリエーション活動のほか、介護度に応じたリハビリを行ったり、作業活動と余暇活動を組み合わせたプログラムを実施している。また、屋内外で様々な活動を行い、社会参加や社会性の育成が図られている。

【月平均工賃額（就労継続支援Ｂ型）　（単位：円）

年度	【参考】R2 年度（更新前）	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
実績	11,965	14,776	14,071	17,286	16,077	16,300

・就労継続支援Ｂ型事業所について、施設で生産する自主製品の品目増加や地元企業からの受託作業の開拓など販路拡大の効果により、月平均工賃の目標額を達成して

いる。また、縫裁ボランティアとの協力によりトートバッグ等の新製品の開発を行うなど就労意欲の向上を実現している。

②・広報紙の発行（年３回）やホームページの更新に加え、令和７年度からはインスタグラムを開設し、センターの取り組みの紹介などの情報発信を行ったほか、大学や専門学校等の実習生（１３０名）や特別支援学校生等の見学者（１４１名）の受け入れを積極的に実施している。

③・利用者のニーズに応えるため、ドアｔｏドアによる送迎の効率化を図り、各家庭まで送迎できるよう利便性の向上に努めている。

（２）利用者の満足度 ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 ⑤ 利用者の生活の質の向上を目的としたボランティア等の活用が行われており、その効果があったか。 ⑥ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	２５	４	２０

［評価の理由、要因・原因分析］

施設の総合評価

【満足度】 （単位：%）

年度	【参考】R2 年度（更新前）	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
実績（入所）	86.7	87.8	73.8	85.8	90.8	94.7
実績（生活介護）	92.6	94.6	91.7	94.6	94.6	92.7
実績（就労支援）	92.0	96.0	85.4	92.6	90.7	90.3

①・北九州市が実施したアンケートの結果、各サービスの「良い」、「まあまあ良い」を合わせた評価は平均で９２．６％（施設入所９４．７％、生活介護９２．７％、就労支援９０．３％）となっており、全体として利用者の満足度は非常に高いものとなっている。

②・食事に関する入所者アンケートにより利用者のニーズを把握し、メニューの多様化（バイキング食、誕生日希望メニュー、鍋食、外注食等）を図っている。

③・利用者代表と直接意見を交わす等、苦情・要望に対する仕組みを確立している。

④・必要事項は毎日の朝礼や食事の際など利用者がそろった機会に連絡するとともに、行事予定や職員勤務表等は掲示板を活用するほか、希望する新聞を自由に購入・閲覧できるようにするなど、利用者視点に立った情報提供を行っている。

⑤・ボランティアグループ「れんげ」の協力で外出支援や作業のサービス向上を図るなど、ボランティアの受け入れ（延べ３３３人）や地域との交流に取り組んでいる。

⑥・利用者ごとに個別の障害に合わせたリハビリテーションをより充実させるために、

今年度新たにデジタルリハビリテーションツール「デジリハ」の導入を行い、利用者が楽しみながら充実したリハビリテーションが行える環境を整えた。

2　効率性の向上等に関する取組み	**１５**		**９**
（１）経費の低減等 ①　施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。 ②　清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。 ③　経費の効果的・効率的な執行がなされたか。	１５	３	９

［評価の理由、要因・原因分析］

【光熱水費】　　（単位：千円）

年度	【参考】R2 年度（更新前）	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
予算	16,100	15,503	16,420	17,400	17,400	18,000
決算	14,971	14,023	15,569	15,543	15,930	17,106

①②・物品の計画的購入や事業所間の共同利用、再委託による業務改善等により経費削減に努めている。

（２）収入の増加 ①　収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。	—	—	—

［評価の理由、要因・原因分析］

・提供するサービスは法定であり、報酬単価も国基準であるので、収入増加の工夫の余地がない。

3　公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み	**３５**		**２４**
（１）施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況 ①　施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。 ②　職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。 ③　地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。 ④　モニタリングの結果、施設の維持管理が適切に行われているか。	１５	３	９

［評価の理由、要因・原因分析］

①・施設内において管理運営にあたる人員は適正に配置されており、施設の維持管理は適切に行われている。特に、重度の方が多く在籍する施設入所支援については、介護福祉士を手厚く配置し、利用者が安心して生活できる体制構築に取り組んでいる。

②・「強度行動障害支援者養成研修」や「虐待防止研修」等の専門的な研修に職員が参加し、職員の資質向上に意欲的に取り組んでいる。

③・ボランティアグループ「れんげ」の協力で外出支援や作業のサービス向上を図るなど、ボランティアの受け入れ（延べ３３３人）や地域との交流に取り組んでいる。
【再掲】
・訪問理美容や訪問歯科等を通じて入所者の処遇の改善を図るとともに、音楽ボランティア「百瀬ミュージック」などレクレーションの機会の提供に努めている、
④・建物自体に老朽化はあるものの、細かな清掃・修繕等が行われており、適切に管理されている。

（２）平等利用、安全対策、危機管理体制など			
①　施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。	２０	３	１２
②　施設の利用者に対する人権が尊重され、また、身体拘束及び虐待等の防止策が適切に実施されているか。			
③　利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④　施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤　日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥　防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦　衛生管理及び感染症防止への対応が適切であったか。			
⑧　事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

［評価の理由、要因・原因分析］

①②⑤⑦・法人において情報管理規定を定め利用者の個人情報保護を組織的に実施しており、また、衛生管理及び事故防止並びに虐待防止について、マニュアルの整備・点検・修正を行う等、適切な管理運営に努めている。
⑤・ヒヤリハット等を基に、職員会議等において事故の未然防止を図っている。
・無事故継続を目指して職員の意識を高めるため、「交通事故０」運動への取組みを行っているほか、送迎車全車にドライブレコーダーを搭載している。
・見守り介護ロボット（７台）を導入し、入所者のバイタルサイン（脈拍数、血圧等）をスタッフルームから２４時間監視できる環境を構築しており、深夜緊急時の迅速な対応や職員の負担軽減につながっている。
⑥・不審者対応マニュアルを整備するとともに、施設内外に防犯カメラ（１５台）や非常通報装置（４か所）を設置するなど犯罪防止に努めている。
・小倉南警察署と協力して避難訓練を行っているほか、福祉避難所として非常用物品や非常食の備蓄を計画的に行っている。
⑦・嘱託医による入所者へのワクチン接種のほか、看護師による職員への衛生指導など感染防止対策に重点的に取り組んでいる。

【総合評価】

合計得点	７５	評価ランク	Ｂ

［評価の理由］

・事業計画に沿って、入所施設と通所施設の適切な運営管理を行っており、利用者の障害特性やニーズに応じたきめ細かいサービス提供に努めるとともに、利用者の満足度も非常に高く、障害福祉サービス事業所の管理運営者として高く評価できる。

・特に、重度の方が多く在籍する施設入所支援については、①介護福祉士を手厚く配置し、細やかな支援により利用者が安心して生活できる体制構築に取り組んでいる点、②見守り介護ロボットを複数導入し、入所者のバイタルサインをスタッフルームから２４時間監視できる環境を構築しており、深夜緊急時の迅速な対応や職員の負担軽減につながっている点、③歯科医院と連携し、入所者の摂食能力の評価を行い、食べる力にあった嚥下食の提供を行っている点については、高く評価できる。

・生活介護について、入浴やレクリエーション活動のほか、利用者が楽しみながら充実したリハビリテーションが行える「デジリハ」を新たに導入するなど、介護度に応じたリハビリを行ったり、作業活動と余暇活動を組み合わせたプログラムを実施したりしている。

・就労継続支援Ｂ型事業所について、施設で生産する自主製品の品目増加や地元企業からの受託作業の開拓など販路拡大の効果により、月平均工賃の目標額を達成している。

・食事に関する入所者アンケートにより利用者のニーズを把握し、メニューの多様化（バイキング食、鍋食、外注食等）を図っている。

・「強度行動障害支援者養成研修」や「虐待防止研修」等の専門的な研修に職員が参加し、職員の資質向上に意欲的に取り組んでいる。

・ボランティアグループ「れんげ」の協力で外出支援や作業のサービス向上を図るなど、ボランティアの受け入れ（延べ３３３人）や地域との交流に取り組んでいる。

［北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見］

適正に評価されている。

今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。